

(Q11) 体細胞クローン牛から子牛は、産まれているのですか。

- 1 体細胞クローン雌牛が人工授精により、その産子が初めて産まれたのは、石川県畜産総合センターで平成12年7月10日のことです。これまで80頭近くの体細胞クローン雌牛が子牛を無事に出産し、140頭近くの子牛が誕生しています。
- 2 また、体細胞クローン雄牛の精液を使った人工授精により、その産子が初めて産まれたのは、鹿児島県肉用牛改良研究所で平成12年10月4日のことです。これまで約70頭の牛が体細胞クローン雄牛の精液により産まれています。
また、フランスの研究所では体細胞クローン牛の雌と体細胞クローン牛の雄を交配して、正常な子牛が誕生しています。
- 3 これらのことから、体細胞クローン牛の生殖性は、通常の牛と何ら異なるものではなく、正常であるといえます。
- 4 また、これらの産まれた牛については、その成長性などについての調査が行われています。

(Q12) 体細胞クローン技術で作出された動物は、牛の他には何がありますか。

- 1 体細胞クローン技術で作出された動物は、牛の他に実験用動物としてマウスが国内外で数多く作出されています。
- 2 マウスの他には、ヒツジ、ヤギ、ブタ、ネコ、ウマ、ウサギ、イヌが作出されており、国内では、ブタとヤギの体細胞クローンが飼育されています。



体細胞クローン豚の「Zena」